

令和2年度 校内研究の取組について

津ノ井小学校
研究主任

1 研究のテーマ

「心豊かに生きる、やさしくたくましい津ノ井っ子の育成」
～主体的・対話的で深い学びを展開する道徳授業の工夫～

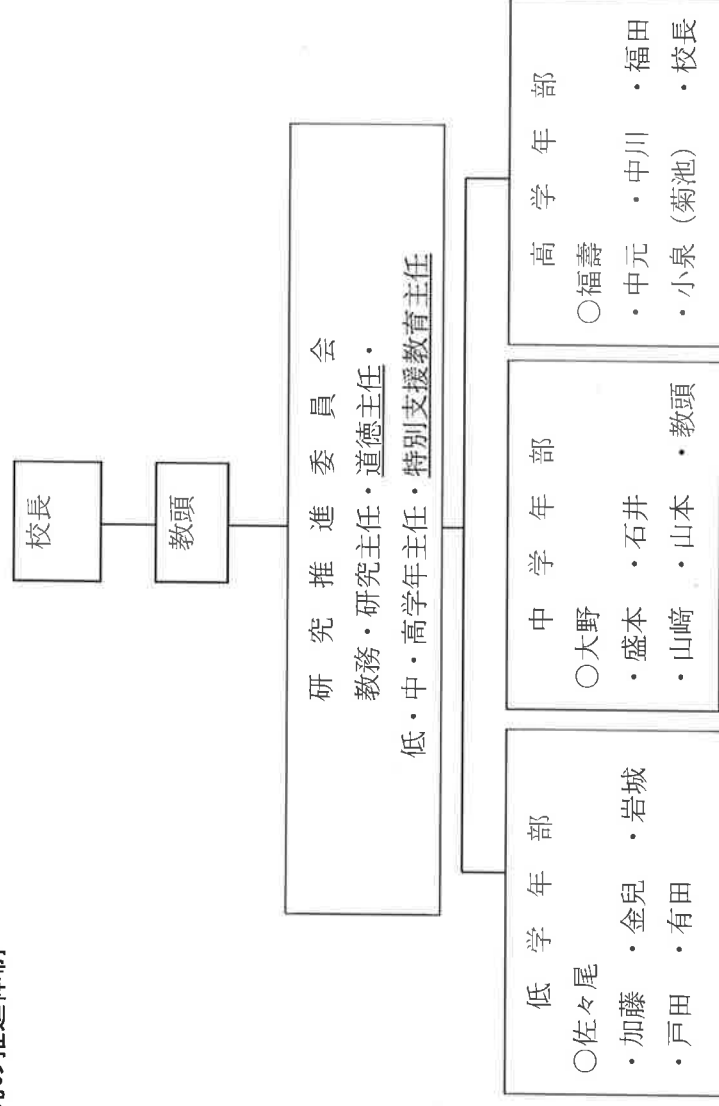
2 テーマを設定した背景

(令和元年度道徳授業実践事業報告書より)

○**児童が語る授業**…道徳授業の研究を始めて2年目である。基本的なことに意識できるようになったというだけでまだ児童の「深い学び」までには至っていないのが現状である。発問構成、効果的な問い返しなどについて引き続き、取り組む必要がある。さらには、児童自身ももっと自分のことを語れる学習をめざす必要がある。同時に児童同士が語り合える雰囲気や授業ができるようにしたと考える。

○**評価の充実**…授業中における児童の見取りを含め、評価は大きな課題である。道徳ノート以外でどのように児童を見取り、それをどのように蓄積していくのかがまだ不十分である。今後、さらなる実践の積み重ねが必要であると考える。

3 研究の推進体制



4 研究仮説

主体的・対話的で深い学びを展開する道徳授業の工夫することで、本校の重点目標である「心豊かに生きる、やさしくたくましく楽しい津ノ井っ子」になるだろう。

○主体的とは、児童の一人一人が道徳諸価値を自ら問題として考え、道徳的価値を視点に自己を見つめること

○対話的とは、教師との対話、児童相互との対話、教材との対話、自分との対話を通して、多様な感じ方や考え方に触れ、考えの異同に気づいたり比較したりしながら、自己の生き方について考えを深めること

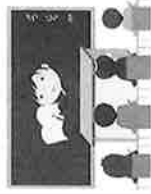
それらをもとに協働して、多面的・多角的に考えられるような指導の工夫を行うことで、よりよい生き方について深い学びができ、本校重点目標の達成につながる。

【学校教育目標】

ともに学び 心豊かに たくましく育つ 津ノ井の子
 《めざす学校像》 家庭・地域と協力して取り組み、子どもたちが成長してく学校
 《めざす児童像》 笑顔で登校し、友だちとともに進んで学ぶ子
 《めざす教師像》 子どもの成長に責任を持ち、学び続ける教師

豊かな体験活動

- 児童会活動の活性化
- 縦割り、異学年交流
- 学校行事の充実
- 教科、総合的な学習における体験



道徳授業

量的確保(35回以上の実施)

質的改善(発問の工夫等)

評価の充実

主体的に学ぶ姿勢の育成

- 課題意識をもって取り組む授業
- 説明は発表の機会の充実
- 考える力をつける10のポイント
- 語り合い、学び合える環境づくり

仲間づくり

- 支持的雰囲気の学級経営
- 学びの集団の育成
- 学級活動の充実
- 児童面談週間
- 心のアンケート



学習環境の整備

- 道徳コーナーの設置
- 学習の足跡の掲示
- 道徳アンケートの実施
- 道徳のノートの活用

【研究主題】

「心豊かに生きる、やさしくたくましく津ノ井っ子の育成」
 ～主体的・対話的で深い学びを展開する道徳授業の工夫～

(1) 主体的・対話的で深い学びを展開する授業づくり

- ・導入の工夫・発問の工夫
- ・問い返しの工夫・板書の工夫
- ・学び合いの工夫

(2) 児童の成長を願う評価のあり方

- ・評価のあり方の研修
- ・道徳ノートの活用と生かし方
- ・学習状況の評価の蓄積の工夫

6 研究内容

(1) 主体的・対話的で深い学びを展開する授業づくり

- ・子どもが考えたくなるような導入の工夫～授業に一本筋を通す導入をどう設定するか～
- ・中心発問の工夫
- ・問い返しによる深い学びの工夫
- ・板書の工夫～記録から学習を深めるためのツールに～
- ・子どもの学び合いの工夫～ペア、グループでの話し合いの工夫～
- ・道徳ノートへの工夫～何を学んだのかをいかに自己評価させるか～
- ・学習環境の整備（学習した教材の掲示）（場面絵の保存）

(2) 児童の成長を願う評価のあり方

- ・道徳科の評価のあり方についての研修
- ・道徳ノートへの取り組み方と活用
- ・思考ツールの活用
- ・研究授業を通しての児童の評価の見取りのあり方
- ・道徳アンケートでの実態の把握

7 現在までの共通理解と実践

(1) 授業改善

①導入の工夫～子どもにも課題意識を持たせ、教材を読みたくくなるようなもの～

- | | |
|---|---------------|
| A | 子ども実態把握 |
| B | 考える観点の共有化 |
| C | 本時の展開の伏線 |
| D | 本時のゴールを見据えた設定 |

具体的には以下のようなものがある。

- 価値の定義を問う
(親切とは何か、思いやりと何か、友情とは何か)
- 主題を問う
(本当の勇氣とはどんなものか。本当のやさしさとは何か)
- 本質を問う
(なぜ命は大切なのか。なぜきまりは大切なのか)
- 人の生き方から問う
(強い人とはどんな人か。礼儀正しい人とはどんな人か)
- キーワードから問う
(命のかげやきとは何か。 富士山から日本を変えとはどういう意味か。)
- 問題を提示し、問う
(命はあげたり、もらったりできますか。きまりとルールはどちらが大切ですか)

②発問の工夫

- A 主人公の心情や考えを明らかにする【多面的な発問】

○共感 (どんな気持ちだったのか。心の中でどんなことを思っていたのか。どんなことを考えているのか。)

○比較 (・はじめのAと最後のBの違いは何か。・

・AとA‘の比較 (前後) AとBの比較 (登場人物同士)

・AとCの比較 (教科書にないものとの比較)

○分類 (・AとBは違うことをしているけれど、共通することはないのか

・AとBは同じことをしているか、違うところはないのか

・みんなの考えを仲間わけできるかな?

・はじめのAにはなくて、おわりのAにあるものはなにかな?

○分析 (・Aはなぜ変わったのか (・Aの行為を支えているのはどんな心か

B 自分自身の気持ちや考えを明らかにする【多角的な発問】

○投影 (・あなただったらどうするか。・あなただったら○○できるか。)

○批判 (・○○がしたことをどう思うか (・○○の行為や生き方をどう思うか

・この○○をどう思うのか

③問い返しの工夫 (問い返しは、問い返しは、補助発問にさらに教育的効果を意図したもの)

A 確認、深め、広げる。

B 子どもの発言を肯定的に断定

C 子どもの発言を否定的に問う。

D 仮定を提示する。

③板書の工夫

・本質的なことを短く書く。

・学習の中心が分かるように構造的になるように書く。

・発問の反応をすべて同じように書かない。

・矢印や図などを効果的に使う。

・教材の読み取りはあまり書かない。

・児童の反応はすべては書かない。

・「心のものさし」やバロメーターなど視覚的に意見が分かるようにする。

・子どもの発言に意味づけしながら書く。

④学び合いの工夫

○ペアで

・共通の課題に対しての相談

・自分の意見をまとめた後に意見交流

・隣同士

・自由に動き回って、相手を代える

○グループ

・事前に自分の意見を持つ

・司会を決めて、全員の意見をグループで聞く。

・お互いにもっと聞きたいこと、質問したいことを出し合う。

・友達の意見で参考になったこと、よかったことを発表する。

・全体に提案する。

(2) 評価の充実

①道徳ノート

A 形式

- ・日付、授業回数、発表回数
- ・教材のタイトル
- ・主題名、本時のテーマ
- ・テーマに関わる授業前の反応（意識）
- ・授業中の板書や友だちの意見、自分の気づき
- ・授業後半の意識の変容
- ・授業後の見通し、前向きな意欲

ノートに記録することが
目的ではない。
必要なもの、いいなと思った
ものにしぼって記録させる。
※学年により、ノートの取り方
は、工夫する

どのような取り方が効果的なのか、深い学びにつながるのには、試行錯誤を行うなかで、これが一番よいと思うものを見つけていく。

B 思考ツールを生かす（別紙）

②評価の蓄積

A パフォーマンス評価（顕著な子どもの見取りを付箋やノートに記録していく。）

B 子ども達の振り返りに対するコメントのあり方を模索する。

・多面的・多角的な視点や自分事として考えている部分を取り上げる

・子どもが気づいていたことを整理して、まとめる。

・子ども達の意見を肯定的に受け取り、励ます。

・どういう意味か、さらに一歩深められるようにアドバイスをしたり、問い返したりする。

C 授業時の学習状況の記録の蓄積

・名簿を利用して

・付箋を利用して

・座席表を利用して

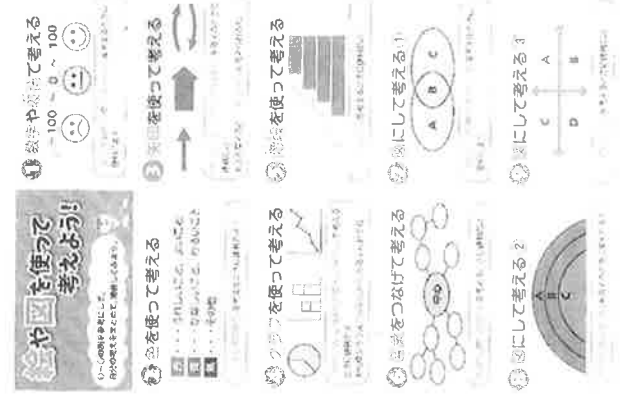
D 道徳アンケート

・児童の道徳科に対する意識の変容を見る。

8 小教研までの日程（仮）

研修	授業	道徳コーナー	環境	小教研
4月 共通理解	授業開き 道徳ノート開始	高学年	教室掲示	教材候補選定
5月 教材研究	部会研 A	低学年	図工掲示	2～3
6月 全体研 1	3日（水）浅見先生来校		中庭	・教材名
全体研 2	部会研 B		図工作品等	・演題
7月 全体研 3 指導案検討会 模擬授業	部会研 C		当日何を掲 示するのか を考えてお く	・会場図 ・日程 【中旬決定】 ・指導案検討会 ・冊子の構成
8月 指導案検討会 模擬授業		中学年	学校締め切り 8月14日	
9月				
10月 交換授業		低学年		
11月				
12月 研究収録		高学年		
1月 研究の振り返り				
2月 来年度の研究 の方向性		中学年		
3月				

【資料】



絵や図を使って 考えよう!

自分の考えを発表したり、
ノートに書いたりするとき
のヒントにしてみよう!!



1 数字を使って考える。

【数字のれい】

0 ~ 10

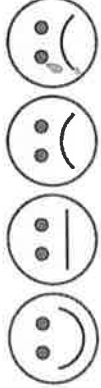
「どれくらい」を
考えるときに使うと、
考えやすくなるよ。



- ▶ ○○の気持ちは何くらいだろうか？
- ▶ ○○レベルは何くらいだろうか？
- ▶ ○○パワーは何くらいだろうか？

2 顔を作って考える。

【顔のれい】



「どんな気持ち」を
考えるときに使うと、
考えやすくなるよ。



- ▶ ○○さんはどんな顔だろうか？
- ▶ まわりの人はどんな顔だろうか？
- ※ 色々な顔を作って考えてみよう！

3 色を使って考える。

【色のれい】

赤 ……うれしいこと、よいこと
青 ……かなしいこと、わるいこと
黒 ……その他

「どんな気持ち」を
考えるときに使うと、
考えやすくなるよ。



- ▶ ○○さんの心の色は何色だろうか？

4 矢印を使って考える。

【矢印のれい】



「どこから」「どこへ」
「つながり」を
考えるときに使うと、
考えやすくなるよ。



- ※ 矢印の太さをかえてみると、
「どれくらい」を考えることもできるよ！

5 言葉をつなげて考える。



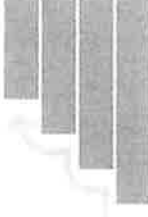
「つながり」「広がり」を
考えるときに使うと、
考えやすくなるよ。



- ▶ どんな人たちがつながっているのかな？
- ▶ どんなことにつながっているのかな？

6 階段を使って考える。

【階段のれい】



「レベル」を
考えるときに使うと、
考えやすくなるよ。



- ▶ ○○さんのレベルは何くらいだろうか？
- ▶ もっと上(下)のレベルはあるかな？